

変わらないこと、 変わっていくこと

Arao City Public Relations

今は古びて黄ばんでしまった、破れそうな紙。
B4サイズほどの紙を2つ折りにした1枚全4ページから、荒尾市の
の広報紙の歴史は始まりました。
最初の発行から60年。
市の情報を市民の皆さんに届け続けて今号で1400号。
暮らしとともに、広報紙や情報を届ける手段も変わっていきます。
けれどそこには、変わらないものもあります。



荒尾市報 第1号 (昭和25 (1950)年5月15日発行)

当時の寺田佐平市長は巻頭の「創刊に寄せて」の中で、「今年こそは六万市民の皆さんの期待にそうように市行政のありかたを推進したい念願で市長として懸命の努力を惜しまない覚悟を以って発足いたしました。」と創刊に至った思いを寄せています。また、荒尾市民が協力して荒尾市を育成することですばらしいまちができるであろうこと、そのためには市政に対する正しい認識と正しい知識が必要であり、行政との互いの切磋琢磨が必要だとも述べています。(左写真)

そのほかの記事

市議会議長(当時)松岡喜男氏の祝辞 / 伝染病予防に予防接種を受けましょう / 参議院議員選挙と公職選挙法 / 荒尾市を如何にしてよくする? (世論調査結果) / 南荒尾駅の落成式挙行 / 地方自治の手引① / 食品営業の開始廃止には届出を / 中央公民館の開設と利用促進の記事



◀ 近隣自治体の広報紙 (7月号または8月号)。
自治体の規模などの違いで、ページ数と発行回数は違ってきます。また、熊本市の「市政だより」はタブロイド版で他の市町村より紙面が大きい。

近隣自治体の広報紙

荒尾市に住んでいると、他の自治体の広報紙を見る機会は多くありません。大きさはA4判サイズがほとんどですが、表紙・発行日・発行回数はさまざまです。しかし、まちの情報を的確に届け、住民の皆さんの生活を豊かにしたいという目的は同じです。

もうひとつの「広報あらお」

声の広報

広報あらおは毎号、ボランティアグループ「朗読サークルあらお」の皆さんによって、音声訳されています。この音声訳により、昭和63 (1988) 年から現在まで、視覚に障がいをお持ちの人に広報あらおを届けています。現在はカセットテープでのアナログ録音ですが、平成23年度からCDでのデジタル録音による制作に移行していきます。

うごく広報

現在、市民サービスセンター(あらおシティモール)と市役所1階総合案内で「うごく広報」を放映中です。待ち時間に荒尾市の情報を気軽に知ってもらおうと、職員有志で制作した動画による「市のご案内」です。新しい広報手段として、今後いっそうの活用を目指します。

そのほかの主な記事

戦病傷者戦没者遺族等援護法 / 市民の声 / 建築基準法による道路指定 / 地方行政用語解説①公聴会 / 巡回映画の案内 / ご存知ですか? 母子相談員 / 子供のしつけ 叱りかた / 納税貯蓄組合を結成しよう / 婦人と地方自治 / 結核の予防注射をしましょう など

広報あらお第69号 (昭和28 (1953)年6月18日発行)

現存している「広報あらお」の最も古い号(右写真)。通算の号数などから、「荒尾市報」がどの時点かで「広報あらお」と名称を変えたことが推測されますが、途中の号が欠けているため、正確なことは不明です。少なくともこの前の号(68号)も「広報あらお」として発行されていたことが、69号に載った「訂正」の記事から推測できます。裏表2ページのタブロイド版(新聞紙の半分ほどのサイズ)で、右上に「回覧」用の印鑑を押すためのマスが印刷されています。



市の新しい情報発信手段

リアルタイムに伝える手段

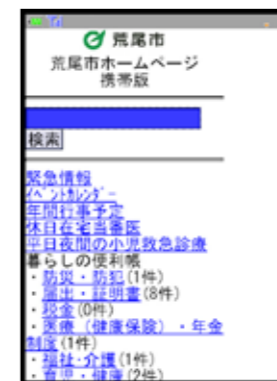
広報紙は月に2回の発行ですが、情報は次々と新しいものに更新されていきます。そこで市の情報をいち早く発信するために、平成14年に市のホームページができました。今年6月にはリニューアルし、より迅速に情報提供できる仕組みを導入してほぼ毎日更新されています。同時に携帯電話専用のホームページもリニューアル。より身近な情報提供の場として活用が始まっています。

市公式ホームページ

1カ月のアクセス数
(平成22年7月)
25,535件

カテゴリ別
アクセス数ランキング
(平成22年7月)

1. イベントカレンダー
2. 入札契約情報
3. 広報あらお



▲携帯電話専用のホームページ



▲荒尾市公式ホームページのトップ画面。音声読み上げソフトにも対応している。近頃の更新では、昨年KABの「ふるさとCM大賞」に応募した「ふるさとCM」の動画を掲載。



▲1,000号記念号(平成4 (1992)年8月1日号)の発行は、市政50周年の年。かつての広報記事の拾い読みのほか、「親しまれる期待される広報とは?」のテーマで、市民の代表やかつての広報編者、行政担当者などで座談会が生まれ、充実した内容。

▲1,099号(平成9 (1997)年1月1日・15日号)新春号で表紙・裏表紙がカラー。主な記事は緑ヶ丘リニューアルタウンなど。

▲1,200号(平成13 (2001)年7月15日号)表紙は七夕飾り、主な内容はあらお荒炎祭や高校総体、参議院議員通常選挙など。

▲1,300号(平成18 (2006)年2月15日号)表紙は市民マラソン大会、主な内容は焼酎「小岱」の名前決定など。

現在の広報あらおへ

現在の広報あらおは、A4判サイズで1号あたりの年間平均ページ数は19.8ページ(年間22回発行。平成21年度実績)で、月2回発行(1月・8月以外)ですが、昭和42年はタブロイド半裁サイズで月3回発行(1・10・20日)、1号あたりの平均ページ数は2.88ページでした。発行回数は昭和47年8月から月2回になり、サイズは平成3年にA4判サイズになりました。ページ数は年々増大しています。印刷は当初の白黒~2色~表紙のみフルカラーへと変遷しています。

変わらないこと、 変えていくこと

まずは1500号に向けて、一歩ずつ。
より、暮らしに寄り添う広報紙を目指して

広報紙には、今も昔も変わることなく、生活に密着した情報が満載です。しかし情報発信手段としては、生活の変化と同様に進化し続けながら、増加する情報を工夫してお届けする必要があります。

より住みよい荒尾にしていくためには、これからも行政と住民の皆さんの相互の理解と協力が必要です。広報紙はこれからも、行政と住民の皆さんを円滑につなぐ懸け橋となるべく、進化を続けます。